

1994年度事業計画書

1. 1994年度事業計画の概要

さる 2月15日、かねて申請中の当協議会の特定公益増進法人化について文化庁より正式に認可されました。92年 8月に大蔵省に要望書を提出して以来僅か1年半の短期間で、また法人設立 4年で特増法人認可になったわけです。文化庁、大蔵省の関係者の話によりますと異例のスピード認可とのこと。政府が企業によるメセナの重要性、その公共性、緊急性を確認したことを意味するものと云えましょう。また、国が企業メセナの公益性を初めて公認したのものとして画期的意義をもつものと各方面から評価されております。当協議会は発足以来、税制部会を中心としてメセナに関する一般的な税制上の優遇措置を獲得すべく鋭意努力してきましたが、今回の認可はその実現の一里塚であると云えます。

長引く不況によって多くの企業は厳しい数字の経常利益となることが予測されており、それは一般寄付金の損金算入限度額の減少につながりますので、当協議会の特増法人化は文化支援に深い関心をおもちの企業にとって大きなメリットになると期待しております。

この特定公益増進法人の利点を生かし、1994年度には当協議会経由の企業メセナを拡大させることに力点を置き、企業メセナを一層啓発、普及することを最重点課題として取り組んでまいりたいと考えます。

企業メセナが経済環境の影響を受けて厳しい状況で推移する一方、国は補正予算で各施設の増改築を行い、地方自治体も相変わらず文化施設を建設しております。その国や地方自治体も施設の運営管理等に企業の協力を求める動きが出始めております。当協議会としてはこれらに対処するため、1994年度は地方自治体と企業メセナの関係を明らかにしてまいります。

また、21世紀はアジアの時代とも云われております。そのアジアではシンガポール、香港、韓国などで、メセナ組織の設立がすすめられています。その気運をさらに盛り上げ、欧米とアジアのメセナをつなぐ場を設けることは、アジアで最初の協議会を設立した日本に与えられた役割でもあると考えます。1995年 4~5月に世界メセナ大会を東京で開催する予定ですが、これは歴史的な意義をもつ事業になると思います。1994年度はその準備を重点活動の1つとしてまいります。

以上の観点から1994年度の事業は次の4点を中心に進めてまいります。

1. 企業、芸術団体に対し、メセナをしやすい、されやすい環境づくりをします。

①特定公益増進法人化のPRを行い、助成事業の拡大を図ります。

②芸術団体に対しては助成要請方法をテーマとするアート・マネージメント講座を開講します。

③企業と芸術団体との助成情報ルートを改善します。

2. 啓発、普及活動の一層の充実を図ります。

①会員企業を対象とするセミナーを充実します。

②定例会、招待サービスの回数を増やします。

③メセナ大賞の一新

④メセナ誌の充実

3. 世界メセナ大会開催の諸準備をすすめます。

世界メセナ大会実行委員会を設置、世界各国との緊密な連携を図り、諸準備をすすめてまいります。特に、東南アジアのメセナ事情について情報収集と交流を図ります。

4. 地方自治体と企業メセナとの現状を明らかにします。

事業計画の具体的内容及び収支計画案は次の通りであります。

2. 1994年度収入計画

2.1 会費収入

1994年 3月18日現在、正は会員169社454口、準会員41社44口となっております。1994年度の予算編成上の会員獲得目標を一応、正会員18口合計 470口、準会員 6口合計50口とし、会費収入合計額12,340万円を見込みました。

2.2 事業収入

メセナ誌の売上収入 130万円、メセナ誌広告収入 360万円、セミナー等の参加費収入50万円、メセナ白書売上収入 150万円と見込んで事業費収入計 690万円としました。

2.3 雑収入

受取利息などで、150万円を見込んでおります。

2.4 助成金収入

当協議会を經由して支援する助成金を15,621万円と見込みました。

以上1994年度単年度の収入合計は28,801万円となります。

3. 事業計画

3.1 啓発・普及事業

3.1.1 会員懇話会

これまでと同様に通常総会のあと、会員の親睦と情報交換の場として年 2回開催します。

3.1.2 定例会

会員企業とアーティストや文化団体との相互理解の場とする定例会は93年度と同様に年 6回程度企画してまいります。

3.1.3 企業メセナセミナー

会員企業のメセナ担当者を対象に、企業メセナの実務を修得することを目的に行っている企業メセナセミナーは93年度を基本的に踏襲してまいります。

①企業メセナセミナー入門編

異動等により、初めてメセナ部門の担当になった方々を対象にメセナ活動の基本的な考え方を多方面から理解していただきます。

②ケーススタディ・シリーズ

会員企業のメセナ活動を相互に紹介するケーススタディ。メセナ担当者がかかえる諸問題について情報交換を行います。

③アートを学ぶ

1994年度は芸術の各分野についてより深く理解する場とし、コンテンポラリーアート・ネットワークと共催で1分野についての研修時間を増やして実施します。

3.1.4 アート・マネジメント講座

メセナ白書1993によれば、芸術団体の中に「企業に助成要請をしたいが、要請方法がわからない」という意見が %ありました。特定公益増進法人になり、企業側の支援はしやすくなりますが、芸術団体側も企業に対して効果的なプレゼンテーションの方法を身につける必要があります。企業のメセナ担当者を講師にプレゼンテーション方法を研究する講座です。

3.1.5 事業共催

他の団体の活動で企業メセナの啓発・普及に役立つものがあれば共催で実施してまいります。94年度も前年に引き続き「文化フロンティア会議」を文化パステルとの共催で実施します。

3.2 情報収集・仲介事業

3.2.1 メセナ誌

現行の32頁から40頁に増頁し内容充実を図ります。また、助成選考委員会で認定した芸術文化活動はメセナ誌を通じて公表し、支援を広く募ります。

3.2.2 ニュースレター

会員企業に対する機関誌です。93年度を踏襲してまいります。

3.2.3 助成要請情報について

免税の対象とならない芸術文化活動の情報を企業に提供する方法を検討してまいります。

3.3 調査・研究事業

3.3.1 メセナ白書

『メセナ白書1994』は各企業のメセナ活動の実施状況に加え、地方自治体を対象に調査を行い地方自治体と企業メセナの関係を明らかにしてまいります。なお、発行は9月上旬の予定です。

3.4 顕彰事業

3.4.1 メセナ大賞

91年度からスタートしたメセナ大賞は同じ方式で3年間実施し、マスコミにも大きく取り上げられ世間の関心を高めてまいりました。4年目を機に審査委員や入賞件数、賞の名称等の再検討を行い、より多くの企業・団体が応募できるよう改善を図ってまいります。

3.5 国際交流事業

3.5.1 世界メセナ大会

1995年4~5月に当協議会設立5周年を記念して「世界メセナ大会」を開催いたします。そのための実行委員会を設置し、準備にはいります。委員会のメンバーは吉田秀和、加藤周一、中村雄二郎、の各氏に堤副会長、福原理事長（実行委員長）、根本専務理事です。

3.6 助成事業

企業と協力して、芸術文化活動への助成を行ってまいります。そのための助成選考委員会は年6回開催し、芸術団体・個人から申請された活動を審査し助成認定活動を選考します。この助成認定活動への支援が免税の対象となります。